



生徒会執行部の言葉

挑戦

生徒会長 五年一組 東海林 さくら

今年度は「鳳」というスローガンのもと、生徒会執行部六人で一年間活動してきました。今年は感染症対策の規制がなくなり、例年通りの活動を行うことができ、さらにさまざまなこと挑戦しました。六碧祭では全校生徒の皆さんに楽しんでもらえるように、自由展示を行ったり、PTAの皆さんと協力してキッチンカーを呼ぶことができました。前例のないことに挑戦するのはとても大変でしたが、皆さんに楽しんでもらうことを一番に考え、一年間活動してきました。至らない点多かったとは思いますが、無事に一年間を終えることができ、本当によかったです。

初めて生徒会長という大きな役目に挑戦し、改めて行事の企画・運営の過酷さを知りました。頼りない私をいつも支えてくれた生徒会執行部をはじめ、全校生徒の皆さん、先生方には心から感謝しています。つらいこともありましたが、楽しく活動し続けることができた一年だったと思います。

一年間ありがとうございました。

進取果敢

後期副会長 五年一組 須貝 香帆

私は今年度を振り返り、挑戦の連続であった一年間でした。

後期副会長になった当初は、自分の立場における責任の重大さを感じ、言動に伴う周りへの影響力に苦勞しました。

今年度は感染症の規制が緩和され、四年振りに行事を通常通り開催することが出来ました。そのため、今までであった行事から新しく考え直す必要がありました。その中でも、六碧祭では新たにキッチンカーを呼んだり、後期生は出店を出すなど、沢山の挑戦をすることが出来ました。また、セーターやブレザーが新しくなったことも印象的です。このような活動が出来たのは、先生方を始め、全校生徒の皆さん、保護者の皆さんのおかげです。生徒会活動が執行部だけでは成り立たないことが身に染みて感じました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

後期副会長でなければ成し得なかった、貴重な経験が沢山あります。宝であるこの経験を自信に変え、これからも大切にしていきたいです。最後に、一年間共にした執行部のメンバー、本当にお世話になりました。沢山の思い出をありがとうございます！

見えない世界

事務局長 五年二組 高橋 由梨佳

時の流れというものは無情にも速いもので、私達が生徒会役員に任命されてからもう一年が経過してしまっただけです。生徒会事務局長として学校行事の運営に携わることができたのは私にとってとても名誉なことと、普段学校生活を送るにあたってなかなか注目することのなかった世界が見えるようになったと感じる。

様々な仕事や作業をしていく中で、私が特に感じたのは「責任」だ。学校生活の中で生じる責任は自分のみが損をするという、つまり自己責任という形が多い。しかし、生徒会活動の中ではそう言う訳にもいかない。中には金銭が関わるものもあったので、一つ一つミスのないように確認を行いながら作業を進める必要があった。気の遠くなるような作業、迫るメド切、責任、様々な苦勞がある中、ここまでやり切ることができたのは、やはり生徒会メンバーと共に助け合うことができたからだ。彼らと共に忙しく、しかし楽しい一年間を過ごせたことが本当にうれしく思う。

失敗や反省もあったが、生徒会の仕事に関わることでできたという経験は、私の人生において力になってくれるだろう。来年は、最高学年の自覚を持ち、自分の道を切り開いていきたい。

充実した一年間

前期副会長 三年一組 鍋倉 伊佐奈

私はこの一年間生徒会前期副会長として活動してきました。この一年間を振り返った時、初めての挑戦が数多くあり、貴重な体験をしたことで、たいへん充実し、大きな成長を感じることができました。

三月、副会長になって初めての大きな仕事は、スポーツフェスティバルの準備でした。準備を進める中で私は自分にある大きな責任に気づかされ、プレッシャーを感じていました。しかし、前任の先輩方の努力されている姿を見て、「自分もこんな風になりたい。」と思いつつ活動するようになりまし

た。私はそこから、がむしゃらになって活動しました。そんな中で、自分に得られた事も数多くあります。一つ目は、物事を計画的に実行していくことの大切さです。行事を数か月以上も前から計画し始めたことで、行事を成功させることができました。二つ目はパソコンの技術です。六煌祭や球技大会の際、エクセルでオーダー表を作ったり、ワードでルールブックを作ったりしました。

今年、生徒会として活動していなかったら、こんなにも充実した日々を過ごせなかったと思います。先生方、生徒のみなさん、今年一年協力していただき、ありがとうございました。

繋がりと感謝を感じた一年間

書記長 三年二組 鎌田 葵衣

私はこの一年間書記長の活動を通してさまざまな経験をし、多くの大切なことを得ました。執行部で過ごした時間は濃く、意味のあるものになったと思います。

私が心に残っているのは、最初の仕事であるスローガン決めです。今年度は「鳳」という凛々しい様子が感じられる一文字に決まり、私はかっこよくて最高だと思いました。執行部は「鳳」を大きな布に書き、私は主に文字や背景の校章を塗りました。その時初めて執行部のメンバーと協力して仕事をすることがとても楽しかったと覚えています。

私が執行部の活動で強く感じたのは責任の重さです。執行部は行事や学校生活において大切なことを決めます。時に生徒からの辛辣な声が聞こえてくると複雑な気持ちになり、責任を感じました。

そして、私が執行部に所属し、一番嬉しかったことは、先輩方との繋がりを持てたことです。執行部に所属するまで親しい先輩はいなかったため、執行部の先輩方と一緒に活動することが嬉しくてたまりませんでした。

私は執行部でかけがえのない思い出ができました。支えてくださった先生方、全校のみなさん、本当にありがとうございました。

一年を通して

会計 三年一組 中山 樹

私が過ごした、二〇二三年の一年間は、中等で過ごしてきた一年間の中で、最も充実していました。生徒会執行部の役員になり、自分の動き方を今まで以上によく考えた年でした。

とくに印象に残っている行事は、六煌祭です。私の中では、六煌祭が一年間の行事の中で、一番大変でした。執行部は、六煌祭の企画、運営をしながら六煌祭に参加していたので、私はそれまで経験したことのない忙しさを体感しました。とても大変でしたが、私が生徒会役員選挙に立候補する際に、当時の担任の先生から頂いた「人間のキャパシティは一度溢れないと成長しない。キャパシティから溢れてもそれは成長するチャンスだよ。」という言葉が心の支えとなり、がんばり続けることができました。私はこの一年間で、周りの人のことを考えて行動することができるようになりました。執行部での活動は、周りを見て、自分で考え、判断し、行動することを私に教えてくれました。今後は、この一年で得たものを活かしながら、成長して、自分の夢を叶えたいです。

